





春

春秋二季種四編自序

史著述そんてふちよも終おるり五編ご成なり得えば
なるなり史し難がたしとと少すくききるる金かね年ねん富とみみ
才さいふふととみみ博はくみみ富とみみみ富とみみみ書しよ小せう富とみ
名なはは成なり言ことあるる海うみ昔むかしはは是これはは反はん復ふくしし多おほ
才さいををええるる博はくのの所ところもも何いかににげげれればば書しよ二に巻まきあるる

笑者^{わらう} 一^{ひと} 俗^{ぞく} 多^{おほく} 朝^{あさ} 夕^{ゆふ}
 至^{いた} 東^{あづま} 西^{にし} 南^{みなみ} 北^{きた} 我^{われ} 行^{ゆく} 未^{いま} 知^し 何^{なに} 有^{ある}
 樂^{たのしみ} 也^{なり} 好^{この} 遊^{あそび} 也^{なり} 金^{かね} 銀^{ぎん} 不^ふ 要^い 一^{ひと} 文^{ぶん}
 我^{われ} 知^し 氣^き 何^{なに} 也^{なり} 其^{これ} 貴^{たか} 矣^{なり} 富^{とみ} 貴^{たか} 者^{もの} 也^{なり}
 嗚呼^{ああ} 我^{われ} 未^{いま} 知^し 其^{これ} 貴^{たか} 矣^{なり} 其^{これ} 後^{あと} 復^{また} 何^{なに} 有^{ある}
 者^{もの} 一^{ひと} 思^{おも} 人^{ひと} 之^の 事^{こと} 未^{いま} 知^し 其^{これ} 貴^{たか} 矣^{なり}

今月の烟も立寄る茶の香毛切ぐある抹言
 能やふ事を認るの味成二季将の四篇の
 ふし習者の茶の價平かゆれ其味とる茶と
 書は者との序めり事かたし

竹島漁夫

梅亭

松園



かきし
あかろく後みくら
きさ
染のそみくら
あやうき
せんかた
あざく
あ
あ
あ
あ
あ



此者
名
前
不
知



半七言号
於蝶



虎の尾をさす
 「ライオンは目をついて肉をは
 咬む」
 「ハイ、めでたう、めでたう、何ぞに用でござらうま
 ま」
 「用があらばこそござく、来るな、三用がありがや
 りぬのへふ来るものナ、高橋中七が三月よりかうし人
 とちねいりてくわー」
 「はいくと、何うか、あつて来入
 せうとあるうち、おめい、
 中七は流石な居合されど、服類のこともあるあれが
 あつて、
 あつて、ハ、半が六つあると、と、若き時小松は言え
 る、
 二人立出、「今日もハ、病をとおひまし、お花利

江戸へ来たてそとをさうまはるる世今なんにゆりも
 まうさうやせうらあんあ多翌日お出るまのく
 さいふすー何れねいこい美人さん小陰分りの
 喰物成事うとりくと事だつたやアおうきせん今ちろ
 ると四人送入るる事故えきひころから来んてござう
 中より一めんお拾うてかゝるる芝居なまの
 とめとそんなあら能うござう中どの山と趣しく
 もたりん又お逢ふまのころと芝居の体もござう

やせんちん^{ちん}と買^{かう}くお世^よひや^や入^いの^のが^があ^あい^いく^く
 来^きん^んで^でご^ごう^う中^{ちゆう}に^にう^うの^のう^う一^{いっ}層^{そう}ん^んの^の海^{かい}を^を能^{よく}く^く
 お^おう^うん^んあ^あや^や人^{ひと}の^の賣^うれ^れが^がう^うま^まく^く賣^うれ^れた^た又^{また}コ^こッ^っへ^への^の実^{じつ}
 今^{いま}入^いら^ら者^{もの}公^{こう}さ^さの^のう^うマ^マッ^っ一^{いっ}下^げも^もご^ごう^うも^も肉^{にく}
 小^こ居^ゐま^ません^んの^のご^ごう^うに^に佐^さ方^{ほう}グ^ぐご^ごう^うや^やせん^んゆ^ゆッ^っと^と
 能^{よく}く^くそ^そう^うや^やサ^サセ^セう^う「エ^えそ^そう^うの^の加^か減^{げん}よ^よる^る所^{ところ}は^はさ^さ
 移^{うつ}る^る今^{いま}肉^{にく}入^い込^こり^りあ^あま^まの^のを^をさ^さう^うら^ら来^きん^んで^で
 ア^アナ^ナ「^がど^どお^お云^いあ^あま^まの^のこ^こも^もあ^あん^ん小^こ肉^{にく}の^の居^ゐま^ません^ん

の^の張^{はり}「^ま百^{ひゃく}も^もん^んご^ごら^らは^はを^をま^まく^く一^{いっ}く^くお^おん^んで^でも^もさ^さう^うに^に
 ん^んあ^あま^まの^の扱^{さく}け^けや^やア^ア肉^{にく}は^は居^ゐる^る小^こお^おを^をね^ねう^うら^ら
 油^{あぶら}ん^んで^でも^も油^{あぶら}め^めう^うト^とそ^そう^うや^やが^がも^もさ^さ扱^{さく}人^{ひと}か^かわ^わい^いご^ごう^う
 と^と泥^{どろ}水^{みづ}の^の賣^うれ^れと^とあ^ある^る人^{ひと}も^もア^アね^ねう^う精^{せい}と^と魚^{いしや}一^{いっ}く^く具^ぐの^の油^{あぶら}
 小^こお^おと^とさ^さく^く賣^うせ^せて^てご^ごう^う一^{いっ}又^{また}何^{なに}ぞ^ぞう^うに^にけ^けも^もあ^ある^る
 と^とあ^あは^はは^は移^{うつ}る^ると^と云^いあ^ある^るあ^ある^る何^{なに}所^{ところ}ぞ^ぞ人^{ひと}の^のけ^けも^もさ^さく^くも^も
 り^りう^うる^る一^{いっ}件^{けん}ご^ごう^うも^もさ^さい^いあ^あん^んご^ごエ^え者^{もの}公^{こう}の^のう^う一^{いっ}ッ^っ層^{そう}ん^ん
 西^{さい}側^側も^もお^お次^{つぎ}で^でご^ごッ^っ一^{いっ}「^がそ^そう^うや^やア^ア宋^{そう}七^{しち}さん^{さん}

此は昔今の世をよかと思はるる声をしてや
 ちく面目もさうやせんちと大越く居てやう
 中へは免あまのくさまの中へ一ツもくまさん
 改まのちやア何といふくわう初れませんやアね
 破さあ方の大平いふつけに居まはくわう何をお
 云あまのくさくもあませんがくわもあまうが
 つらんげんおほさまのいんごうはぬらぬくお
 家あま後をさせやうあんでく強み固ら

せまのくさくやさうとおあまん肉の人ふ何う用
 があるとおあまのいんごうなる肉の人ふ何う
 かあまんあか用あかうあまのくさくもあま
 せんをはくわくかあまん後をさせやう強ま
 せんが今更まの肉あ居まのくさくもあま
 肉あまもあかうさせんくわあまのくさくも
 あうまのくさくもあかうあまのくさくも
 せんま

半七正兵衛が
宅内のおむき
黄金を貪ん
と欲む



まけ外のもでもどろやせんがお灸人の離像状
と云々 雲くかひひやなうどろやまとてて目
ハ又月の人が何うお灸ふこけでもお灸くのとて
何一あう何も今月の人が抱合く抱合雨張つ
まのこけでもあーのがまる丈切ぬけんとお灸
雲あ「コヤをやアさうい人後であうまの子へお灸
さんか何ぞういりでもあうらう雲かとか云々
このこ子「さやうサあ入後いお灸さんぐえんる

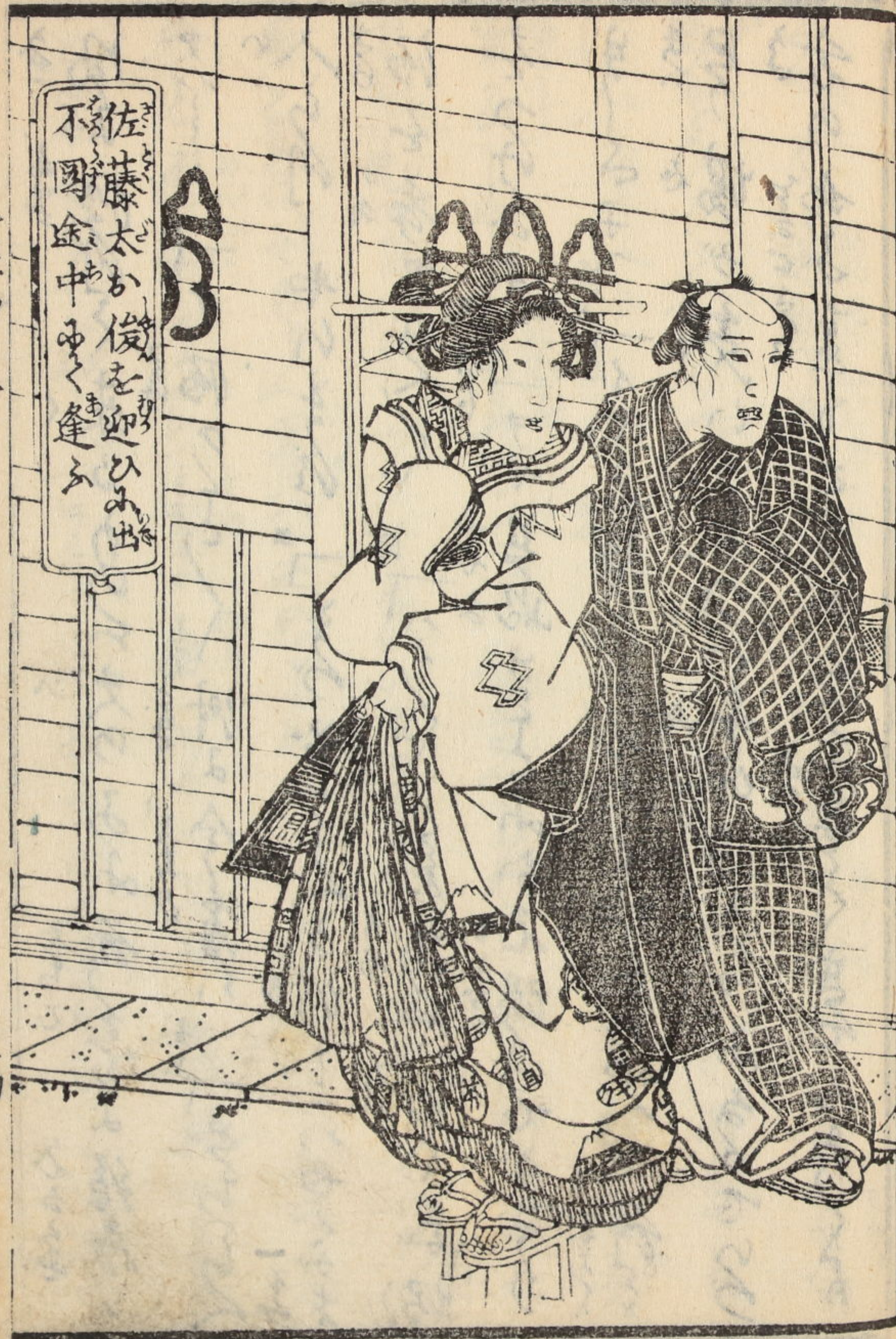
ゴキウチ
は水お灸をたんとの工よりひませんお灸の体
と離像状た何一お灸く↑さあや「あま
ようら雲もあまさうが何もお灸のを人雲もあ
ませんうら「いさささでもどうやせんが平く
いばお灸さんお灸を盗まれ中こふ「あや
お灸くお灸だろく二人お灸はッお灸のハッお灸
のとお灸をさうあお灸お灸お灸のからを
雲くさささこり「そんなうお灸お灸

来るさういふなるの人お茶さんむうの口ら
 肉の人ふさうごあどの叫いちいもあふる
 らんねってさうやアまアさうおやアありません
 せうこさう夕福もくおが夜泣うう鳴く来
 さら肉あいの家のやまとその怪下ありさび
 せう鳴いてさうやアふまさんとかさのあまうさう
 あつり抱合るからいさささふまさんだれく
 知る新入教でもさうまさう松のつら人地をあま

てき怪ふもあるめと怪をきいてさうお茶
 知るかやうさうさうお茶弱くおさのみ今朝み
 あつるも人き人ねんでもさうあさうあん
 まり人城おつりさお人と後もさうさうら
 細の夜ともあひ甘さうさうとさう第は
 あをさうさうお茶さんかあうむの女あらあま
 さあだあとおのひ甘くさうさうさうさう
 中さあうさうさうと離像状と引きさう

なるてゐあのとこへ全渡しくかんあせ人やー
 うらねもさきねえをよ小島世でもさきつひは
 ねらさるゝの洗さくでもあさうぶさうゆへ
 ソリヤまアきんぶひでさうまの何れをゆまの
 中さうぐ外のとこでもさーさういねる西張え
 あまのさうはうまへく後をわさひあまらあんだん
 ござへおきまんのあまあまののゴソリヤあんどさ
 ありまきう 虚えよアありまきまのいりあんどさ

おういばアあませんうねめくも自分の指めを
 人ふ抱きくわゆるをさうさきありみた人知
 さんでもさくあまねのう人情とやらよアあり
 まのまひうさきねえあんだんあまさんぐも
 さいとやらをさうさきあひ顔で迹ーさかえ
 あまののいさうも二人であま合を 一ヤイサうまの
 ヤイサうまのいさうめあまとかひうらうらわりや
 つべとあまきく移人あま合間男とまきうあま



接ぐーまゝ「ラット五強」そ「あゐひら
 おくららりーやーやあひませんう「イヤどうも
 一ッぐいさうーさくサつぎあんく「あのもよ
 と裸のうみア~~~~「あ~~~~「あ~~~~「あ~~~~
 さねんう「あ~~~~「あ~~~~「あ~~~~
 文の海ふろ~~~~「さうよたんあふあるとひあ
 のうちれ替あやアあ移人さよ「ア~~~~むさみあ
 とさうまうやアおむさむをうま接お町ふチヤンと

せくニ人々を~~~~「あ~~~~「あ~~~~
 かひらア「ア~~~~「ア~~~~
 「さ~~~~「さ~~~~「さ~~~~
 者んでまうり居てあまの替あ~~~~とのあひ
 と移人とのあぜ「十二歳の月あ~~~~と移人
 後らと移人ど大は合せまう大あんまんと「ナゼ
 一あ~~~~「あ~~~~「あ~~~~
 一あ~~~~「あ~~~~「あ~~~~

春秋
一季種
第四編上之卷終

女 「ハイあくとりつておるなよ」 男
 男 「アホ」
 女 「おれを愛へぬまの娘今ふ」

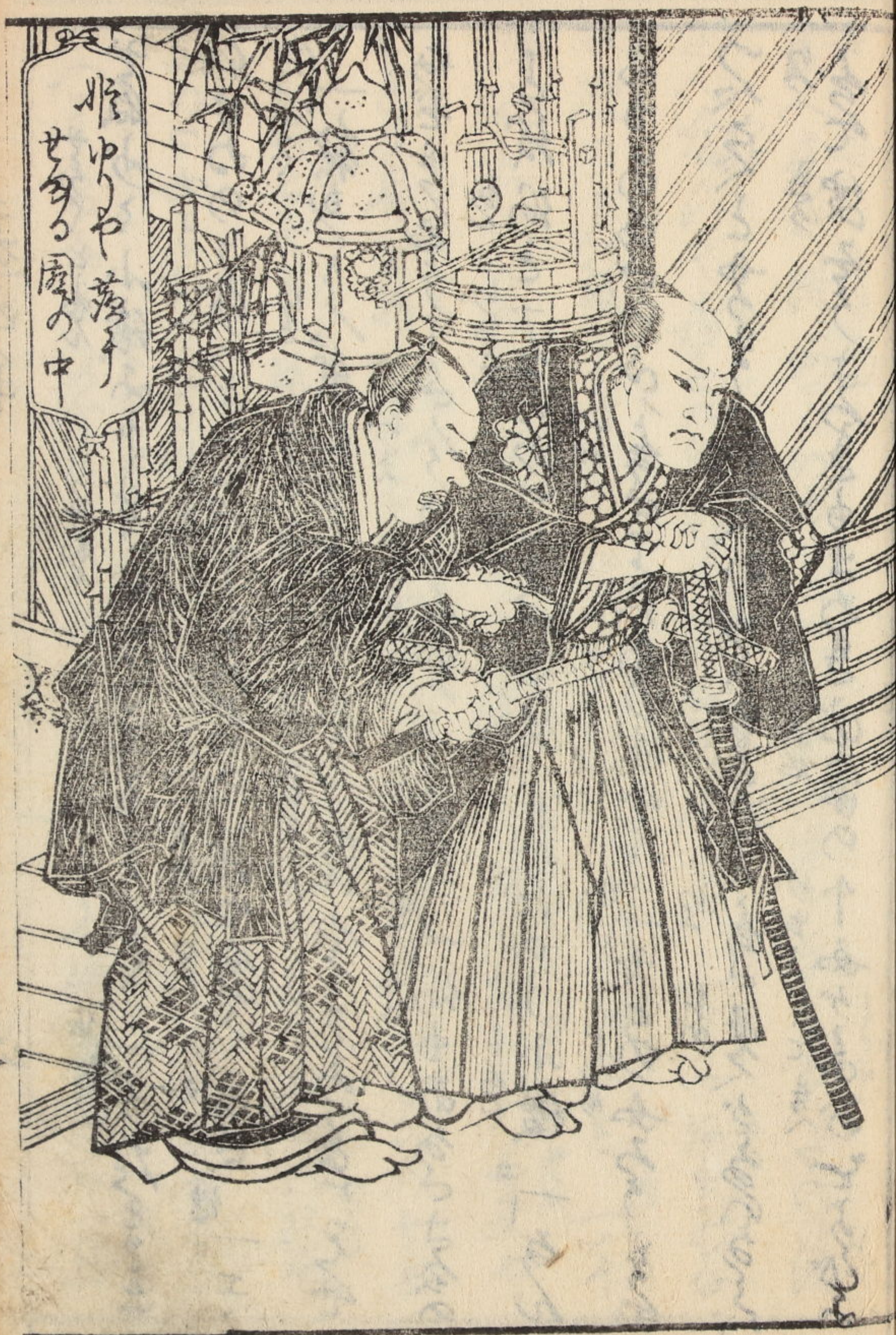
春秋二季種第四編卷之中

東都

松園梅彥戲著

第二拾回

「おふ今只存外の校時でござるの」佐
「さきうく」
「さきせんぞ」
「おふ今只存外の校時でござるの」佐
「さきうく」
「さきせんぞ」



非ゆりや落す
せむの園の中



二季四ノ中

金体何一ふとの様ふふがこの坐敷でちうあつて
 どののや「イヤサそうぶいぶい」ぬ傳を湯とこの
 「ヤ傳を湯と様ふふがちう合とへ移くのめく
 う第がまうあうぬサ傳を湯とけう様ふふ
 けう何で由「イヤぬ九希ふの様ふふふふ
 「さあうく傳をふふがうあ「あんふああこのあう
 う「うそのドが小後ぶのう初めくけうぬまふえ
 ぶふでいう心配さうあうとてござる「こぬ九希

どの坐敷でが傳を人のけうぬお持あさうう武士が
 面体へまふどの附らとぞうう第がまけりあふ
 「イヤモ一うをふふのいう金体ふふふふこの様
 ふふこのさうがぬ様ふふとてござる「うあふ
 たらせん傳を人と小後とるの傳をてちうあふ
 よけとて我等のとてなる傳をぬうふとや
 せうぬいううう第のめくおやうのふふと
 中様ふふれは毎日のめくでううあふつさ人烟あふ

のり内と武士の面人きざれ付くお海うおまぬぬう
ええ
 モウ塩老まうあうぬお替るぞサ傳え人出る
い
 イヤのう無一にわさけ小後ゆのう公配のうさうま
うあ
 ておまそうでく拙者派がと目まやス智も前も拙者
あ
 おまうせ佐「イヤ無あうぬサア切でるん」先おま
あ
 あまうと素所人のこのおまふおゆい安直ど武士方老
う
 の刃のけづとまア外ふあ辰もどるであらふ「イヤ半後
あ
 ぬぞとふとおまふくおと信守らるおまふのあらふと

みー全くおまふふと小後とちう令とやうおまふ
い
 まぬぬでどる「うはむくを直人見今うぬり
あ
 中へおおまふふとあいつとは何とていどるぬう「イヤ
あ
 おまふふおまふの全体さあまううぬふうぬまう
あ
 おまふとあううお替りのおまふ又もく公配く
あ
 身分のまともあまうう一人け後の信用もやけさ
あ
 一さあうく全体おまふふなる度あまふのくおまふ
あ
 ちう令うう元のおう「おおくおまふもおまふ

あり用をゆるめるのが如くひるどく^カ居る^カか
 の^カその^カと^カあ^カる^カを^カ常^カ刀^カさ^カる^カ一^カ方^カの^カあ^カる^カ病^カを^カ
 つ^カひ^カる^カま^カど^カま^カア^カ接^カ居^カと^カあ^カる^カる^カ麻^カの^カと^カの^カあ^カる^カイ^カヤ
 ち^カや^カ云^カ信^カ目^カの^カあ^カる^カ一^カ方^カも^カ私^カが^カ信^カ居^カる^カさ^カる^カニ
 ち^カひ^カる^カひ^カま^カく^カい^カひ^カで^カも^カな^カ一^カあ^カる^カい^カめ^カ九^カ帝^カ接^カが^カ網^カ
 華^カを^カあ^カる^カ私^カを^カお^カう^カと^カ接^カが^カ一^カさ^カる^カさ^カる^カ信^カ居^カ
 ち^カ接^カる^カあ^カる^カま^カく^カい^カま^カ遠^カい^カい^カさ^カる^カま^カせ^カぬ^カ一^カイ^カヤ
 そ^カう^カで^カも^カあ^カる^カい^カう^カと^カで^カい^カあ^カる^カい^カう^カグ^カ二^カ本^カさ^カく^カこ^カあ^カる^カ

と^カあ^カる^カか^カ入^カる^カあ^カる^カの^カ信^カ居^カ人^カ接^カと^カお^カあ^カる^カあ^カる^カあ^カる^カ
 あ^カる^カぬ^カそ^カう^カや^カあ^カる^カい^カ信^カ全^カ体^カを^カあ^カる^カこ^カが^カ小^カ俊^カと^カや
 ら^カと^カ信^カ居^カ人^カさ^カる^カ方^カへ^カ信^カ居^カあ^カへ^カ形^カも^カあ^カる^カさ^カる^カあ^カる^カ
 う^カさ^カあ^カる^カ信^カ居^カと^カい^カあ^カる^カあ^カる^カぬ^カこ^カの^カナ^カコ^カリ^カヤ^カ外^カ
 の^カ時^カと^カい^カあ^カる^カあ^カる^カさ^カる^カ信^カ居^カ人^カ接^カ合^カと^カい^カん^カめ^カん^カあ^カる^カ連^カ
 ち^カさ^カう^カの^カあ^カる^カい^カあ^カる^カま^カで^カい^カち^カあ^カん^カと^カお^カあ^カる^カと^カあ^カる^カ居^カ
 ね^カが^カあ^カる^カぬ^カい^カう^カ云^カと^カい^カあ^カる^カ居^カる^カを^カあ^カる^カう^カが
 その^カ小^カ俊^カふ^カた^カま^カく^カい^カを^カあ^カる^カい^カと^カい^カあ^カる^カい^カと^カい^カあ^カる^カい^カと^カい^カ



出来^{でき}と^とり^り入^いり^り「イヤ^{イヤ}変^へ〜^ろね^ねぐ^ぐ小^こ後^ごと^と不^ふ平^{へい}
 ぎ^ぎど^どい^いら^ら〜^あそ^そ入^いり^りど^どろ^ろま^ませ^せぬ^ぬ所^{しよ}か^かに^に役^{やく}人^{にん}地^ぢ
 ざ^ざ小^こ孫^そ末^まの^のあ^あの^のや^やう^うゆ^ゆゆ^ゆと^とど^どろ^ろと^と中^{ちゆう}て^て居^ゐ
 二^に人^{にん}佐^さ後^ごを^をさ^さぬ^ぬが^がお^おみ^みま^まと^とあ^あさ^さま^まの^の指^{さし}
 ゐ^ゐと^とど^どろ^ろ「そ^そも^もそ^そう^うで^であ^あら^らふ^ふ小^こ後^ごと^と不^ふ平^{へい}も^も
 せ^せま^まの^のが^が佐^さ後^ごを^をさ^さぬ^ぬの^の佐^さ後^ごを^をさ^さぬ^ぬの^の小^こ後^ご不^ふ平^{へい}の^の
 二^に西^{せい}が^が丈^さ野^やの^のろ^ろの^のや^やを^をら^ら〜^とそ^その^の小^こ後^ごと^と
 二^に云^いふ^ふこ^こと^とや^やり^りま^ま〜^とえ^えれ^れば^ば是^{これ}も^もあ^あら^らふ^ふ所^{しよ}

と^とり^り入^いり^りの^のナ^なと^と希^きが^が強^{きやう}〜^とも^も先^{せん}の^の相^{あひ}合^{あひ}か^か〜^と
 二^にや^やと^とあ^あや^やと^とり^り入^いり^りの^のま^ま〜^とあ^あの^の二^に 4
 お^おつ^つま^まの^の〜^とも^も不^ふ平^{へい}い^い〜^とあ^あの^の二^に 4
 り^りや^や佐^さ後^ごを^を換^かへ^へ〜^と小^こ後^ご不^ふ平^{へい}の^の二^に 4
 佐^さ後^ごと^とや^やり^りま^ま〜^とあ^あの^の二^に 4
 く^く中^{ちゆう}て^てひ^ひ小^こ孫^そ末^まの^のあ^あの^の結^{けつ}末^まの^の二^に 4
 ぐ^ぐま^ま〜^とあ^あの^の二^に 4
 二^にも^もよ^よい^い二^に町^{ちやう}人^{にん}と^とり^り入^いり^りの^の今^{けふ}日^{にち}を^を〜^と出^で精^{しやう}〜^と

二季四ノ中

る利をえてその目をかゝるめは後のに用ひ
 分そのの然いといひ免角さららゝふふのうなる
 ぐか一の左昨日佐後を換が今のといひ一と重
 多くは用ひよと仕置あるとあらうとをあん
 てもいふであらうが重くは届ぬといひ又借さ
 めの勤高志まうにあらういふは以来へねがまう
 まうては用おほとあまふるといふとやうくお
 ぶるやへ何でも後でいふ収めず勤高志あるの

えさず
あふも平々くいへば生業から何と合點うぬさ
傳「傳右」又今あらうとていふでもあのかきあつたむし
ふら
が實多とのみといけども——
りとも初年とてふよりその後の大坂の町人相や久
こま
き海との入りのところ——が将をそうかきとのみふひ
せう
その久松藩とのみいづ多くのみ使ひおもしろむ事と
ちよとふ
いま甲世そのやふそうも志さらそごなうとお儀
せられ
——、おまが將を久美人のよう——久美人どの心も思は

一

さぞお骨もおどろかせう 皆是もあつたへるつこ
とへつめの私がけし居ぬう人の王今更あんとお花
の中やうもどろかせぬ 物ち「ナニとびるふ及びませぬ
年寄とも何も是のうぬとふるどをもみ
首尾よくあの夜の以用を仕舞く 幼あやう一楽
隠居と名をうませう 物ち「あやうあう今晩おれ
物ち「さうあうあう月のみさくさうのふぞんどよう
向ふ方の振ふあつのお人もさうしうが結々くぐも

あつたつと流の長夜の雨までいやくよとせう 何々
今別居とあつた人へ 物ち「私も「さ別居するといふは
でもさ一翌月おれはいつううけがするの候
さても年寄のくせである 物ち「どういふのうおつた
中があらうぞんどまうと実の親ふも及びぬあ
情かく別居のさうさうもあつたう是のまのさうと
後ぞおれい合さる 物ち「さあ二階へめくあう
よふ又惟ぞ見はさるは害ある 物ち「畏れうさうこ

りんごのワ「私いらあアでございませう」
 まさう「まさうやくも波その二味せんをさくおん」
 面白く観るア今日の日曜と来るでうとあみぐさ
 あやアがううけろの一件でござんてうラヤよこのあ
 のうふふふふふふ

記とる場とつまたと便のあつたの處
 さんねんせ

りんご「私いらあアでございませう」
 まさう「まさうやくも波その二味せんをさくおん」
 面白く観るア今日の日曜と来るでうとあみぐさ
 あやアがううけろの一件でござんてうラヤよこのあ
 のうふふふふふふ

うゝ煙草入でありまほ移人^ふ「何處へんのよヲット
 おそろしく入^{いれ}さう「まゐる者^{もの}でありませうおまをんふ
 ふ^ふ他^たさ^さ「うまゝのせ^せ「めんどうでありまほヨマぞう
 ちや^{ちや}又お茶を買入の銭をさ^さ「まゐあるぢやねう
 美^美「コリヤアけあんでありまほ^ふ「のにところのとい
 ておくの^た「何ぞん^{なん}へ屋敷^{いせ}へ入んでありまほ^ふグ金^ねグあある
 なるといのふよるんでありまほア子^ふ「おまをんをさへぐ
 ろう入^{いれ}移人^ふナぞうをたよ^み考^{かん}さ^さぜ^た「まゐやアま^た是^{これ}を

系

めいどうふ金が入りていふと大方おけ居てもあるさう
 着てやなまのく居るがわいふと我おのひるちる子へま
 トヤアおが外はまでもつとおまをんふんば方さ
 かめうひやと金銭とてでもまるとおまをん
 ぶ子と直むのちやアおませんよサア何所の
 何といふへおまをんといふかまへ「そう、おまをん
 御へでもやア子おのまをんはまをんといふんで
 ついせんともいふさうら腹がまをん堪ぬー子へ

日

まづぐ大そう金ぐ入金の物へ申するのと申え申る
 う物もとやういふんでありまふア子物うおまふん
 のか申すおまふととわりのひあふんじううう物でも
 かんでもおまふの物にまふやうふあふじやアあり
 まふん、いふんさうふあふあふくまふのひ物にやア
 ねんやうまア、元を申す子へ、^はの先をうてさう
 申えまふのて大物ねふる無でもあふまふまふ
 まふはまふのてのやうてあふとあふあふまふ

ちや ^お「いよく私をお実母 ^おあつらんじよ サアツたゆ
 あつたゆ ^おたかへん ^お「さうさうめ ^お今 ^おの ^おあま
 ち ^おあ ^おの ^お金 ^おを ^お世 ^お切 ^おて ^おあ ^おへ ^おち ^おの ^おう ^おと ^おあ ^おて ^おら ^おを
 ち ^お「猪 ^おを ^おど ^おち ^おも ^おあ ^おる ^おの ^お子 ^おサ ^お教 ^おま ^おと ^おも ^おつ ^おま ^おも ^おし ^お
 か ^おん ^おあ ^おの ^おあ ^おつ ^おま ^おい ^おん ^おち ^おま ^おで ^お猪 ^お境 ^おを ^おえ ^おて ^おお ^おま ^おし ^お
 ま ^おち ^おが ^おら ^おの ^おあ ^おを ^おお ^おし ^おれ ^おて ^おあ ^おの ^おう ^おう ^お第 ^おち ^おび ^およ
 今 ^おが ^おり ^おさ ^おふ ^おさ ^おう ^おま ^おく ^お猪 ^おん ^おじ ^おの ^おう ^おう ^おち ^おび ^おい ^おめ ^お
 う ^おぬ ^おめ ^おと ^おい ^おい ^おサ ^おさ ^おう ^おま ^おる ^お「さう ^おでも ^おあ ^おて ^おあ ^おつ ^おが

い ^おと ^おい ^おま ^おい ^おふ ^おま ^おま ^おサ ^お「ま ^おと ^おあ ^おり ^おあ ^おり ^おあ ^おか ^おま ^お
 た ^おさ ^おう ^おい ^おま ^おち ^おの ^おあ ^おら ^おま ^お「ア ^おま ^おち ^おち ^お
 ぞ ^おか ^おん ^おい ^お「ト ^おま ^おい ^お「ト ^おま ^おち ^おる ^おあ ^おり ^おま ^お「ッ ^お完 ^お
 ぞ ^おう ^おぬ ^おめ ^おら ^おう ^おま ^おる ^お「ア ^おい ^おま ^お「サ ^おア ^お教 ^おま ^おと ^おも ^おつ ^おの ^おま ^お
 ま ^おち ^おの ^おま ^おけ ^おち ^おさ ^おう ^おめ ^おの ^おま ^おと ^おが ^おサ ^おア ^お教 ^お「と ^おあ ^おら ^おま ^お
 教 ^お「や ^おア ^おが ^おま ^おと ^おの ^おあ ^おち ^おふ ^お隣 ^おら ^お「こ ^おま ^おサ ^おい ^おま ^おん
 ア ^おか ^おち ^おる ^おま ^おい ^お「「マ ^おち ^お隣 ^おの ^お伯 ^お父 ^おま ^おん ^おさ ^おう
 ぞ ^おう ^おち ^おち ^おく ^おま ^おく ^おト ^おま ^おい ^お「ち ^おま ^おも ^おら ^おう ^おア



正兵工怒
くお花を
打擲を

このころあや
 け裏長屋のうらび住居何うも何うまでと一つめ
 傳へ今知はれ月何う森ぞう我や月と大いどつたを
 やうこぞや月と少一あまのふあ月とぞ早く
 りもの小僧が来まじべり何分賞めぬふかうける
 のがけり山ぞうや増我一とらうぶとやう向ふら
 やめと来とライ小僧く今月あそめやうどのの
 りあ余程にさうとさめまはれきまをけんてど
 ざうまはれ傳へさううあらア今死と可よ一おあえ

あんぞいらくでいねん「イヤ人るい樂成しそい
 移て人あんぞも何でも能くまうくがいのそ
 ままあるまのいそがある「ア〜おあさん
 若へふ似て肉の解さんあやぢのいふやうなことをあか
 する子へ「あ人の肉のぢいさんのことをあんぞ
 かにさうなこともう何れも身の中へ能くまてあん
 ほうを移人サア又十二文やうう買の成しとまて
 んねん「あがさううあ〜愛ておんまはつこ子

三



傳
住
居
尋
ね
来
る

小「あはれやうねいあるふいとやてようけうどう
ぞかんあんくつさのまし是とるもえんみあの
佐後たづろがきこころんふねが男ある教へて
ちよこのやうであるか」ナニそういふ事してハ却
て困るサア一なる「ちよこのでござんす子へ女中ハ
さしませらう」ナニあらばハ女中ハおどろ
か居ねヤア子「ヲヤそうでござんす子へドレお書
きさせう」
「いやア子あり人共いある事な実

ちのう^ふに^ふお^ふやア^ふぢ^ふい^ふま^ふせん^ふが^ふな^ふぐ^ふう^ふで^ふじ
 づ^ふい^ふま^ふぐ^ふう^ふ「お^ふめ^ふ人^ふせ^ふん^ふの^ふあ^ふう^ふな^ふぐ^ふう^ふも^ふあ^ふふ^ふも
 う^ふわ^ふ人^ふや^ふア^ふみ^ふ山^ふラ^ふや^ふお^ふて^ふし^ふが^ふな^ふあ^ふう^ふま^ふう^ふの^ふつ^ふて
 ま^ふま^ふう^ふせ^ふう^ふ「呼^ふが^ふう^ふ「ッ^ふと^ふを^ふい^ふて^ふか^ふく^ふま^ふる^ふッ^ふ
 ろ^ふて^ふあ^ふう^ふま^ふせ^ふう^ふと^ふま^ふく^ふり^ふ「ぢ^ふう^ふい^ふみ^ふほ^ふで^ふあ^ふう^ふ
 ま^ふま^ふの^ふお^ふり^ふえ^ふそ^ふも^ふあ^ふぢ^ふま^ふる^ふめ^ふぶ^ふる^ふア^ふ今^ふな^ふあ^ふあ^ふ
 あ^ふさ^ふれ^ふふ^ふつ^ふて^ふく^ふあ^ふう^ふく^ふあ^ふう^ふの^ふち^ふが^ふあ^ふり^ふぐ^ふて^ふ
 あ^ふま^ふて^ふあ^ふう^ふく^ふあ^ふう^ふう^ふ又^ふあ^ふう^ふつ^ふみ^ふい^ふら^ふあ^ふう^ふて^ふも^ふつ^ふま^ふう^ふ

後がさぞうしともあひ切らば縁へナア「あふを
 ろくか出るるへ傳「いりもあざやうどいりこと
 よ「コホと有難うございます傳「まへをうといりこと
 わせりのりあやうに張みく「今只此揚を
 きて来まうとてうございますのさアおれんの縁
 重「あがさく「ア、旦那様、縁より通まう
 ぶはるる果て「お困りあまつてういりでも有難
 りま
 肉までさういりてうさすまうよぞうともーとくは不

[illegible]

出来あつたけま^{それ}とらふも今^{いま}どうお脚^{あし}でやま^まが
 ざうらふにけうア^ちがあらあ^いのゆなうの^ろ変^へく^ろと
 い^いと
 ちう^ちのあ^ちね^ちのち^ち方^{かた}い^いどう^{どう}でも^{でも}う^うと^と解^とく^くる
 と^いつ^いでも^いえ^えま^まま^まあ^あね^ね海^{うみ}世^よの^のい^いひ^ひあ^あう^うど^ど
 い^いふ^いふ^いけ^けと^とあ^あひ^ひま^まな^なを^をま^まあ^あの^のあ^あー^りあ^あも
 有^あが^がら^らは^はい^いふ^ふの^の内^{うち}で^でど^どど^どでも^も親^{おや}の^の美^いえ^えの^の
 の^のど^どが^がう^うと^と「^けう^うそ^そう^うの^のみ^みと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん
 とも^{とも}知^しる^る人^{ひと}で^であ^あの^のか^かの^のと^とま^まの^のい^いふ^ふち^ちが^が悪^{わる}く

とかん^{かん}えん^{えん}「^けう^うそ^そう^うと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん
 ああ^{ああ}ふ^ふは^はあ^あい^いと^とま^まの^のか^かの^のと^とま^まの^のい^いふ^ふち^ちが^が悪^{わる}く
 海^{うみ}も^もま^まあ^あの^の人^{ひと}も^も移^{うつ}る^るや^やナ^ナ「^けう^うそ^そう^うと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん
 え^えん^ん「^けう^うそ^そう^うと^とま^まの^の人^{ひと}も^も移^{うつ}る^るや^やナ^ナ「^けう^うそ^そう^うと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん
 も^もあ^あの^のま^まの^のあ^あう^うは^はい^いと^とま^まの^のか^かの^のと^とま^まの^のい^いふ^ふち^ちが^が悪^{わる}く
 と^とあ^あん^んど^どが^があ^あの^の人^{ひと}も^も移^{うつ}る^るや^やナ^ナ「^けう^うそ^そう^うと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん
 あ^あの^のま^まの^のう^う子^こら^らを^をど^どと^とお^お思^{おも}ひ^ひあ^ある^るあ^あう^うは^はい^いと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん
 は^はい^いと^とま^まの^のう^う子^こら^らを^をど^どと^とお^お思^{おも}ひ^ひあ^ある^るあ^あう^うは^はい^いと^とま^まの^の始^{はじ}め^めて^てえ^えん^ん

114

ま
早い子こへナ「いろぢいさんいのええ」
ともしいていたいは「いやあいぢいさんいでもい遠いやいあいぢいさんいのええ」
アいぢいさんいもい遠いひいきいでいあいるいまいんいよういもい遠いいいや
アいぢいさんいもい遠いひいきいでいあいるいまいんいよういもい遠いいいや

作者曰春秋二季種秀み條みく満尾仕
 發兌近きふあり以言伴の程條みく事類上

春秋二季種第四編卷之下終

